

京葉少年野球連盟 大会運営規定

2023/3/18 版

① 選手登録・チーム編成

- (1) 大会に出場できるチームは、京葉少年野球連盟に加盟されたチームであること。
- (2) チーム編成は、Aゾーン6年生以下、Bゾーン5年生以下、Cゾーンおよび教育リーグは4年生以下とする。
- (3) Aゾーンチームは6年生が15名に満たない場合は5年生以下の選手登録を認め、15名以内でチーム編成することができる。また、Bゾーンチームは5年生が15名に満たない場合は4年生以下の選手登録を認め、15名以内でチーム編成することができる。
- (4) 1人の選手の同一大会における複数ゾーンのダブル登録は認めるが、トリプル登録は認めない。
- (5) 合同チームでの参加を別紙（合同チームの取り扱いについて）の通り認める。
- (6) 試合中ベンチに入れる人数は、単独チーム選手15名、指導者は代表者（又は副代表）、監督、コーチ2名、スコアラー1名の5名以内及び介護員2名以内を加えた合計7名以内とする。但し、単独同一学年で16名以上の場合は20名までベンチ入りを認める。
- (7) 背番号については、全ゾーンとも監督30番、コーチ29番、28番とする。選手の背番号は主将を10番とする。他の選手の背番号0番は認めるが00番は認めない。
- (8) 指導者および選手が不在の場合、当日にチーム登録書を再提出することでベンチ入りが認められる。
- (9) ベンチ入りする代表者、スコアラーのユニフォームの着用は認めないが、チームと同一の帽子を着用する。ベンチ入りする介護員は、軽快な服装を着用し、帽子は必ずしも着用しなくても良いが、介護員と分かるワッペン等を身に付ける。

② 試合の準備

- (1) 試合予定チームは、試合開始予定時刻60分前迄に試合場に到着し、運営総責任者（以下「球場責任者」と言う。）に届け出ること。
- (2) 試合予定チームは、試合開始予定時刻迄に到着しないときは原則として棄権とみなす。当該判断は、球場責任者と当該審判員で決定する。
- (3) 球場責任者は、試合予定チームの球場到着状況の把握を行うとともに、当該チームにグラウンドへの入場時間を告げ、入場の指示を行う。
- (4) 球場内でのフリーバッティングは禁止する。
- (5) 試合前の素振り、バント練習、トスバッティング(第1試合に限定)は、指導者立会いの下、外野で行うことができる。なお、球場責任者の判断で中止する場合がある。
- (6) 当日試合予定チームの指導者は、グラウンドづくりに協力する。また、当日担当審判員は、ルール確認・グラウンドの最終確認を共に行い、試合の円滑な進行に努めるものとする。
- (7) ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。攻撃順はメンバー表提出時のトスにより決める。
- (8) メンバー表は、当連盟指定のものを使用する。フルネームを記入し、ふりがな

- を附して、大会本部へ4部提出する
- (9) グランドイン後の試合前の練習及びシートノック時の手伝いは、ベンチ入りスタッフでユニフォーム（30番、29番、28番）を着用した指導者のみとする。
 - (10) シートノックは1チーム5分以内とする。
 - (11) 準備投球は、1回と投手交代時は5球以内。再登板時は3球以内とする。なお、球場責任者・当該審判員は天候不順などのとき、投球数を減ずることができる。
 - (12) ファウルボールは、1塁側方向は1塁側ベンチ、3塁側方向は3塁側ベンチが処理する。バックネット中央付近のファウルボールは、攻撃側ベンチが処理する。
 - (13) 試合時には両チームから、連盟補助員1名以上ずつを本部席に派遣頂き、試合の記録ならびに得点板掲示などの協力をする。
 - (14) 監督とコーチの服装は全て選手と同一とするが、靴はスパイクでなくとも選手の靴と同系色であれば良い。なお、第1試合に限り、トス前までは前記スタッフのほかにユニフォーム着用者の手伝いを認める。選手のスパイクは同色とするが、人工芝グラウンドでスパイクが滑るなどの理由により、特別に連盟が同一色以外の靴の着用を許可をする場合がある。
 - (15) 介護員は、試合前の選手の健康状態把握に努めるものとする。又、選手が攻撃又は守備中に負傷した場合は、速やかに救護用具を持ってグラウンドに出向くこと。グラウンドに出る際は、軽快な服装で救護用具以外は持たないことに留意する。
 - (16) 学校行事、地域行事、塾、家庭事情等で当該選手が試合に遅れてくる場合、メンバー表交換時、大会本部及び相手チームに説明することで試合出場を認める。

③ 試合時間・延長戦・抽選

- (1) Aゾーン・Bゾーンは、6回又は、1時間30分（シートノックは含まない）とし、時間を優先とする。時間内延長戦は実施する。
- (2) Cゾーン・教育リーグは、5回又は、1時間20分（シートノックは含まない）とし、時間を優先とする。時間内延長戦は実施する。
- (3) 規定回数および時間内延長戦で勝敗がつかない場合は、1回を限度としてタイブレーク（特別延長戦）を行う。球場責任者もしくは連盟指導審判員は、特別延長戦イニングの表及び裏の攻撃開始前に、満塁走者の位置と打順を確認して担当審判員にプレイ再開の指示を行う。『タイブレーク』は、前回終了時打者の次の打者から1死満塁で攻撃開始する。

例 前回3番打者で攻撃終了の場合、4番打者から攻撃開始とする。
走者は1塁に3番打者、2塁に2番打者、3塁に1番打者となる。
この際、通常延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。
タイブレークで勝敗が決まらないときは、最終回時のメンバー各9名の選手による○×抽選で勝敗を決する。抽選は当該審判員4名により、競技者必携「競技に関する連盟特別規則」に定める抽選方法に沿って行うものとする。決勝戦は、勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返し行う。
- (4) 点差によるコールドゲームは、A・B・Cゾーンとも3回以降10点、4回以降7点差とする。降雨、日没の場合は4回終了をもって試合成立とする（後攻チームの得点が上回っていれば4回表終了時成立）。決勝戦では、コールドゲームを適用しない。また、教育リーグでもコールドゲームを適用しない。
- (5) 前項による試合成立で同点のまま試合が打ち切りとなった場合は、サスペンデッドゲーム（継続試合）として後日、継続して試合を行うこととする。

④ 抗議権・タイム回数制限

- (1) 試合中抗議のできる者は、監督と当該選手とする。試合中監督が審判員の許可を得て選手に指示をする場合は、投手マウンドまで小走りで行き、指示後も速やかに戻ること。
- (2) 試合中のタイム回数は、守備時は監督 3 回以内及び選手 3 回以内とし、監督と選手 2 名以上の場合はそれぞれ 1 回とみなす。攻撃時は 3 回以内とする。延長戦の場合は、各イニングに守備時、攻撃時それぞれ 1 回以内とする。なお、選手交代、怪我の手当てなどのタイムは回数に含まない。

⑤ 投手の投球制限

- (1) 投手の肩、肘等の障害発生防止のため、以下の通り投球制限を行なう。
- (2) 1 試合における投手投球回数の制限は以下の通りとする
 - (ア) AゾーンおよびBゾーン大会の同一投手による投球回数は4回(12アウト)を限度とする。
 - (イ) Cゾーンおよび教育リーグの同一投手による投球回数は3回(9アウト)を限度とする。
 - (ウ) 上記には延長戦及び特別延長戦を含む。
- (3) 1日に2試合以上行われる場合の同一投手による投球回数は7回(21アウト)を限度とする。

⑥ 野球場・用具と保護具・服装制限

- (1) A・Bゾーンとも塁間 23 メートル、本塁から投手板までの距離は 16 メートル。Cゾーンは塁間 21 メートル、本塁から投手板までの距離は 14 メートル、ベースは移動ベースとする。
- (2) 試合場の広さ、障害物、その他の状況を考慮し、その試合の特別ルールを作ることができる。
- (3) 使用球は、ケンコーボール公認球「J 号球」とし、金属バットは「JSBB」マーク入りとする。木製バットの使用は認めない。
- (4) ヘルメットは、「JSBB」マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを最低 8 個用意し、打者、次打者、走者、ランナーズコーチャー、ボールボーイが着帽すること。
- (5) 捕手(控え捕手も含む)は、マスク(スロートガード付)、レガース、プロテクター、ファールカップ、ヘルメットを使用すること。シートノック及び投球練習時も同様とする。
- (6) 選手の手袋使用は、守備・打撃・走塁共に認める。ただし、投手守備時の手袋使用は不可とする。手袋のデザインに指定はないが、華美すぎるものについては連盟の判断で使用を控える指示をする場合がある。
- (7) 投手は、手首や腕に、リストバンドなどを使用することはできない。
- (8) 選手、指導者のユニフォームのロングパンツの着用は不可とする。
- (9) サングラスは、連盟の承認なしに使用できる。但し、投手は使用できない。サングラスを使用しない場合は、ベンチに置く。サングラスを帽子に掛ける、ポケットに入れる行為は禁止する。

⑦ マナー

- (1) 止むを得ず棄権する場合は、試合日の5日前迄に連盟事務局に届け出ること。
- (2) 各チームの応援団、ベンチは、相手チームの気分を害さないよう少年野球に相応しい応援で臨むこと。応援については、チーム監督が責任をもつ。特に選手、審判等に対する野次、その他品位を欠く言動は厳に慎むこと。違反した場合は必要な処置を取る。
- (3) メガホンはベンチ内1個でかつ監督（不在の場合代行者）のみ使用できる。
- (4) 試合当日、最終試合になった両チームの指導者は、試合終了後にグラウンド整備を行うとともに、大会で使用した机・椅子等の後片づけの手伝いを行うものとする
- (5) 試合を行うチームは、救急箱を必携すること。又、ゴミ袋等を用意し、使用球場の美化に努めグラウンドの整備も行うこと。

⑧ 審判員の順守事項

- (1) 審判員は、各チームの所属連盟もしくは当連盟の講習を受講した者が担当することが望ましい。
- (2) 審判員の服装は、所属する各連盟の審判服を着用すること。その際、所属チームカラーのアンダーシャツが表に出ないように留意すること。長袖・半袖・防寒服は天候に合わせて着用判断をして良いが、できる限り塁審3人は合わせるものとする。
- (3) 審判員の心得
 - (ア) 審判員は、試合開始60分前までに試合場に到着し、試合開始前に打合わせ、確認などのミーティングをすること。また、試合終了後はお互いの審判技術向上のための反省会を連盟指導審判員立ち合いの下で行うこと。
 - (イ) バット検査の際、グリップテープ等の剥がれたものは安全上認めない。
 - (ウ) メンバー確認は、シートノック中に行うため、選手の安全に配慮して実施すること。
- (4) 審判のローテーションは原則として下記とする。

[当日2試合の場合]

第1試合チームは、第2試合を担当する。

第2試合チームは、第1試合を担当する。

[当日3試合の場合]

第1試合チームは、第2試合を担当する。

第2試合チームは、第3試合を担当する。

第3試合チームは、第1試合を担当する。

[当日4試合の場合]

第1試合チームは、第2試合を担当する。

第2試合チームは、第1試合を担当する。

第3試合チームは、第4試合を担当する。

第4試合チームは、第3試合を担当する。

球審は原則として組み合わせ番号の若いチームが担当するが両チームの協議で決めてもよい。

- (5) 天候急変時、雷雲が発生した場合は、球場責任者とも協議を行い試合の中断、中止等適切な措置をとること。

⑨ その他

- (1) 本規定は、理事会の承認を得て変更することができる。